指定校番号	28018	学級活動		児童会・生徒会活動	◯	学校行事		別紙様式

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立八木小学校	校　長	中島康弘	生徒指導主事	原田宏子

取 組 事 例 名	『いじめ防止強化月間（９月～２月）―児童会が中心となった取組―』

取　組　の　ね　ら　い『キーワード：児童主体のいじめ未然防止の活動』

『やさしい言葉でいっぱいの八木小作戦パート２』

学校を「ふわふわ言葉」や「ふわふわ名人」でいっぱいにして、いじめのない優しい素敵な学校にする。

取 組 の 具 体 的 内 容『キーワード：取組の継続：3 年次　・　9 月～2 月』

執行委員会による取組の提案→代表委員会で決定

1　**取組のねらいについて説明**：執行委員会→代表委員会→各クラス（９月下旬）

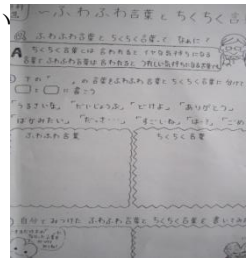
これまでの児童会の取組を伝える。

①　**１年次：「いじめを防ぐ三つの勇気」**

②　**２年次：「やさしい言葉いっぱいの八木小学校」**

③　**３年次：「やさしい言葉でいっぱいの八木小作戦パート２」・・・今年度**

※取組のねらい：八木小学校の課題「人を傷つける言葉の多さ」は，自分たちが考えた課題であることを伝え，継続して取り組むことでさらにいじめのない優しいいくというねらいを説明する。



2　**「ふわふわ言葉」について考える。**（１０月）：各クラス

資料①を使い各クラスで「ふわふわ言葉」と「ちくちく言葉」について考える。

※自分たちのクラスの課題を見つける。

3　**ポスター作り（１０月）**：各クラス

自分たちのクラスで増やしたい「ふわふわ言葉」と「ふわふわキャラクター」を入れたポスターを作る。

※校内テレビ放送で各クラスの取組を紹介

4　**「ふわふわがんばりカード」の取組**（１１月―１週間）：各クラス

※レベル①「ちくちく言葉」を言わない→できたら黄色

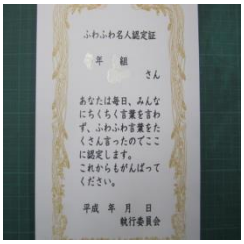
レベル②「ふわふわ言葉」を言った→できたら赤

レベル③だれにでもやさしくできた→できたらピンク

5　**「ふわふわ名人」決め**（１２月）：各クラス

ふわふわ言葉を率先して使っている人を「ふわふわ名人」として認める。

※名人に認定証を渡す。：クラスの人数の１／３



6　**「八木っ子祭り」での取組**（１月）：全児童

各クラスでミッションを考え，協力して運営する。

異学年交流を行うことで，お互いを認め合う。

※異学年で言葉を大切にした関わり持つ。

7　**児童朝会で取組の発表**（２月）

取組の振り返りを行い学級代表が，全校の前で発表する。

※来年度の取組につなげる。

取組の課題・創意工夫『キーワード：広げる・つなげる』

・異学年間交流での取組

　前半は，クラスを中心にした取組を行った。クラスの中での課題を見つけ，それを解決するため，増やしたい「ふわふわ言葉」を具体的に決めて取り組んだ。児童の相互評価もクラスの中で行った。後半は，クラスでの取組を広めるため，全児童参加（異学年間交流）の「八木っ子まつり」の活動で「ふわふわ言葉」の取組を行った。活動後，異学年間での相互評価を行った。

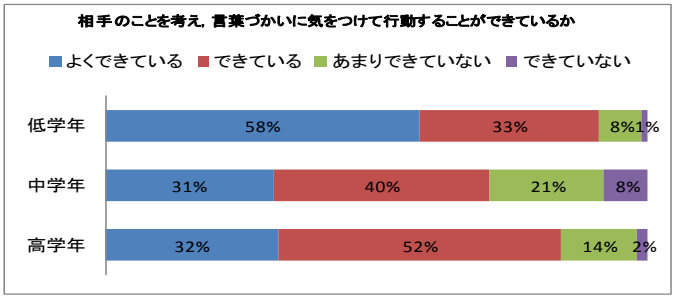
・他教科との関連：６年生の国語科「町のこうふく」

　６年生児童は，自分たちの住む八木の町の未来について考える学習を行った。自ら地域の課題(地域にある落書きやポイ捨てについて)を見つけ，課題解決を行う課程が児童会で進めている取組と同じだったため，６年生だけの学習に止めず，全校児童に向けてプレゼンテーションを行った。

取組の成果（効果）『キーワード：リーダーの成長・具体的な取組』

・　リーダーの成長：昨年度執行部を経験している児童が中心になり，活動を引っ張ることができた。見通しを持って活動をすることができ，取組に色々な工夫が見られた。説明する資料を作成したり，工夫して「がんばりカード」を作成したりした。

・　昨年度は，クラスの取組に温度差があったが，取組の内容をより具体的にすることでその差が解消された。昨年度までは，評価項目を「相手の気持ちを考えて行動することができているか」にしていたが，今年度は，「相手のことを考え，言葉づかいに気を付けて行動することができているか」に変更し，評価の基準を具体的にした。このことで，自分たちの言動をより深く，振り返ることができたように思う。今年度の評価は児童にしっかり返し，来年度の取組につなげていきたい。



・　児童の意識の変化だけでなく，教職員の情報共有に関わる意識の高まりが見られた。児童の発した言葉から問題行動を予想し，対応の必要性をキャッチすることで，すぐに協議しそれを全教職員が共有することができた。学校の中に，問題行動を未然に防ぐ取組が増えてきた。

今　後　の　展　開『キーワード：中学校区での取組の共有』

・　中学校区で取組を情報交換することで，自校のみの取組に終わらず共通した取組ができたらよいと思う。９年間を見通した取組に変えて行くことで，児童・生徒の自主・自立の力が育ちより確かなものになると考える。

他校へのアドバイス『キーワード：継続と長期的な取組』

・　取組の３年次であるが，継続させたことで取組がより深まったように思う。先輩の取組を後輩が受け継ぐことで，見通しを持つことができたり，より良い手立てを考えたりすることができた。学校や地域での課題を児童自ら気付き，その課題を解決していこうとする課程は時間の確保が必要である。いじめ防止月間を９月に設けているが，長期の取組（９月から２月）にすることで，児童のいろいろなアイディアを引き出すことができたり，他の活動と結びつけて取り組むことができたりした。